



朝五中だより

平成29年12月1日発行

朝霞市立朝霞第五中学校

〒351-0031 朝霞市宮戸1580 HP <http://www.asakadai5chu.city-asaka.ed.jp>

TEL 048(471)2236 FAX 048(476)1328 E-mail 5chuu@asaka-c.ed.jp

星の国から

校長 土橋 徹嘉

冬の寒さは厳しいものがありますが、一方で空気が澄んで、星たちの輝きを一段と感じることのできるよい季節です。中旬の天体イベントとしてふたご座流星群の活動が見頃だそうで、夜中にしばらく空を眺める必要がありますが、楽しみにしたいと思います。

過日、3年生との面接で朝読書の時間に読んだ本を聞いたところ、サン＝テグジュペリの「星の王子さま」と答えた生徒がいました。教員になって20年近く経った頃に大先輩の先生に初めて知ったこの本について質問されたこと、数年前この本を読むよう娘に勧められ購入したことを思い出しました。砂漠に不時着した飛行士とそこで出会った不思議な男の子(星の王子さま)の物語です。冒頭に「・・・そのおとなの人は、むかしいちどは子どもだったのだから、わたしは、その子どもにこの本をささげたいと思う。おとなは、だれも、はじめは子どもだった。しかし、そのことを忘れずにいるおとなはいくらもない。・・・」とありますが、子ども時代に素直に感じられた驚きや感動をそのまま持ち続けられる生き方ができたのなら、大人になってからでも今まで以上に楽しさが味わえたのではないかと思います。また、王子は自分の星で育てていた一輪のバラの花と別れて旅に出ます。その途中で庭に咲く多くの美しいバラやキツネと出会います。それをきっかけに自ら水をやったり、覆いのガラスをかけたり、風に当たらないようにして育ててきたバラが大切な花であったことに、改めて自ら気付きます。そして、登場人物のキツネの「・・・心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。・・・人間というものは、このたいせつなことをわすれているんだよ。だけど、あんたは、このことを忘れちゃいない。めんどろをみたあいてには、いつまでも責任があるんだ。・・・」の言葉は印象的でした。人には様々に大切なものがあります。当たり前のことであることではあるけれども面倒を見たからこそ大切になったのであり、また、それに対して責任があると作者は説いていると娘はいいます。私は、表面だけを見ていることへの警鐘、物事の本質を考えることの大切さを考えたりもしました。大人になってから読み始めた私には未だに難しい本の一つです。

先月ですが、3年生が朝霞第三小学校に訪問して合唱コンクールの歌を披露しました。



小学生には衝撃的だったようで児童が食い入るように見ている姿にうれしくなりました。合唱をつくりあげるのに多くの時間を費やして懸命に取り組んできたかと思うと、それはまさに一輪のバラであるかのようにも思えてくるのですが・・・。

今月は、社会体験事業、修学旅行、進路に向けた取組といずれも大事な取組があります。生徒が活躍し、素晴らしい成果が得られるものと期待をしています。

今年も、保護者や地域の皆様には、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り、ありがとうございました。それでは、よいお年をお迎えください。

【3年生三小音楽交流会】